

前回の振り返り(各委員から出た意見)

(1)委員が感じている・把握している現状や課題について

- アフターコロナで人と人とが交わる機会が増えて、子どもたちが元気になっているし、以前よりも発言が増えている。そうした社会背景の変化も含めて話したい。
→子どもたちの「話したい・意見を言いたい」という気持ちをまちづくりの意見などにもつなげることができると思う。
- 意見を言える子どもと言えない子どもの格差が大きくなっている。言えない子どもの権利を保障する必要がある。
- コロナ禍でオンライン環境が充実したことにより、子どもが大人と信頼関係を結び、つながりやすい環境ができたと感じる。
- 区内の中学校でディベートの授業が行われたそうで、今の中学生には「意見を言い合うことは楽しい」という経験を持っている子どももいるのかなと思った。また、学校でも、子どもたちの意見を酌む機会が増えていると感じる。
- 区内には既に子どもの意見を聴いている団体や活動があると感じている。そうした団体や活動の事例を答申に載せたり、団体と話をする機会が設けられると良いのではないかな。
- 子どもが SC や SSW、特別支援員にどれだけつばやいているのか知りたい。また、子どもと関わる専門職への支援についても答申で触れる必要があると思う。
- 町会活動、ラジオ体操、地域のお祭りなど、地域における子ども参加の取組も様々行われている。
- 教員不足の問題で地域の人材を募るなど、学校、保護者、地域の連携がスムーズになっていると感じる。
- 不登校の子どもに対する対応の幅が広がっていると感じる。
- 「居場所がそこにある」ということの認知に時間がかかると感じる。地域団体への支援や、支援へのつながりが課題である。
- 子どもの声を聴くときに大事となるのが秘密を守ることである。例えば声が漏れないような防音機能を備えた部屋が必要である。
→子どもが安心して意見を言えるように、物理的な環境整備も必要である。子どもの目線で話しやすいと思える環境をつくるという視点が大事である。
- 自分の意見を言語化することが苦手な子どももいる。意見を言えなくても他の人の意見を聴く場に参加することで自分の気持ちが出せるという場合もあるのではな

いか。他の人の意見を聴く場をつくることも大事だと思う。

→中野区として、「他の人の意見を聴く場に参加する権利」を謳っていくと良いのではないかな。

- 図書館等で子ども向けのイベントを開催した際、積極的にアンケートが実施されるようになったと感じている。子ども向けのイベント等を行う施設にも届くような意見を答申に入れることができると良い。

(2)子どもの意見表明・参加の考え方について

- 子どもには、意見を表明する権利だけではなく、意見を「聴いてもらえる」権利がある。それを伝えていくことが子どもにとっても意見を言いやすくなるのではないかなと感じる。
- 理路整然とした意見や大々的な意見表明だけではなく、日常的に意見を言って良いということが伝わるような答申にしたい。
- 「意見、考え、思い」とは、言葉だけではなく、表情や踊り、歌など様々な形で表現されるということを改めてきちんと文章化することが大事であると思う。
- 就学前の子どもの思いやつばやきなども含めて、大人には子どもの声を聴く力が求められている。昨年度の私立保育園でのヒアリングは先進的な取組であり、中野区の特徴として大事にできると良いと思う。
- 子どもにとって分かりやすいということは、誰にとっても分かりやすいということである。まさに「子どもにやさしいまち」というのは「誰にとってもやさしいまち」というところにつながる部分だと思うので、そこを意識して取り組むということが非常に大事だと思う。
- 子どもにとってあまり身近でない話題について意見を聴くときは、子どもの日常に近いところや子どもに関係のあるところから聴いていくなどの工夫が必要である。
- 子どもの意見を全て認めるわけにもいかないという中で、子ども自身の意見が正當に配慮され、考慮され、反映されていくことをきちんと位置づけることが大事である。
- 子どもが主権者として意見を表明できること、子ども自身が中野区に住んでよかったと思えるような場面をつくっていくことが、子どもの新しい視点や発想を生み出し、まちをよりよいものにしていくとともに、大人自身の子どもに対する見方や視点も変わっていく。
- 子どもの積極的な参加を促すためには、大人が子どもの意見を積極的に聴くようになるための働きかけも必要である。
- 子どもが参加しやすいよう、交通費を支給するなど、経済的支援も必要である。